

刊行物に関する事業一覧

刊行物の名称	担当部門	頁
『美術研究』(美 14)	美術部	115
『日本美術年鑑』(美 10)	美術部	115
『芸能の科学』(*芸 11)	芸能部	116
『保存科学』(保 09)	保存科学部	116
『東京文化財研究所年報』(*情 03)	協力調整官 情報調整室	117
近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『未来につなぐ人類の技 5 大型建造物の保存と修復』(*修 01)	修復技術部	117
近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『Conservation of Railways II』(*修 01)	修復技術部	118
第 28 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書『The 28th International Symposium on Conservation and Restoration of Cultural Property, Non-destructive Examination of Cultural Objects Recent Advances in X-ray Analysis』(保 20)	保存科学部	118
第 13 回アジア文化財保存セミナー「アジア諸国の文化遺産の将来像と保護制度」報告書『Proceedings of the 13th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage, The Future Vision of Cultural Heritage and Protection Systems』(*セ 06)	国際文化財保存修復協力センター	119
国際文化財保存修復研究会報告書(*セ 11)	国際文化財保存修復協力センター	120
『民俗芸能研究協議会報告書』(*芸 11)	芸能部	121
在外日本古美術修復協力事業報告書 『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成 17 年度(絵画/工芸品)』(*修 05)	修復技術部	122
蔵書目録『東京文化財研究所蔵書目録 6(上) 展覧会カタログ 目録編』『東京文化財研究所蔵書目録 6(下) 展覧会カタログ 索引編』(情 05)	協力調整官 情報調整室	122
『国宝 絹本著色十一面観音像』(*情 01)	協力調整官 情報調整室	123
『懐素自叙帖検測報告』(*情 01)	協力調整官 情報調整室	123
第 34 回文化財保存修復研究協議会報告書『文化財の調査研究および保護に対する地理情報システムの利用』(セ 34)	国際文化財保存修復協力センター	124
国際研修「漆の保存と修復」報告書『Urushi 2005, International Course on Conservation of Japanese Lacquer』(*修 14)	修復技術部	124
イタリアにおける文化財保護制度と保存活用事例の調査研究報告書 叢書[文化財保護制度の研究]『イタリアの文化財保護制度の現在』(*セ 05)	国際文化財保存修復協力センター	126
『重要美術作品資料集成に関する研究』(*美 03)	美術部	126
『日本における外来美術の受容に関する調査・研究報告書』(*美 01)	美術部	127
『近世輸出工芸品の調査研究 II』(*修 05)	修復技術部	128
『「東アジア地域における美術交流の研究 中国壁画の研究」報告書 壁画・建築彩色データ集』(*美 02)	美術部	129
『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』(*美 05)	美術部	129

『柳澤孝仏教絵画史論集』(*美 09)	美術部	130
『日韓共同研究報告書 2005 石造文化財の劣化と周辺環境』(*修 03)	修復技術部	131
『伝統的修復材料に関する調査研究 IV』(*修 06)	修復技術部	131
『レーザーによる文化財クリーニングに関する報告書』(*修 07)	修復技術部	132
『敦煌莫高窟壁画保存修復に関する日中共同研究 2005』(*修 02)	修復技術部	132
『文化財の防災計画に関する研究 第 1 回研究会 文化財防災への道 』(*修 13)	修復技術部	132
第 14 回アジア文化財保存セミナー「文化遺産とともに生きる アジア 変革期における展望：その理論と概観」報告書『Proceedings of the 14th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage, Living with Cultural Heritage Asia, perspectives at changing period: Theories and outline 』(*セ 06)	国際文化財保存修復協力センター	133
『藤間清寄贈図書目録』(*情 05)	協力調整官 情報調整室	134
『第 35 回文化財保存修復研究協議会 伝統的日本画修復材料への科学的アプローチ～近年の動向～』(*修 16)	修復技術部	134
『東文研ニュース』(*情 03)	協力調整官 情報調整室	135
『東京文化財研究所概要』(*情 03)	協力調整官 情報調整室	135
東京文化財研究所 70 年史編纂事業 (情 10)	協力調整官 情報調整室	135

*注 ・『芸能の科学』及び『民俗芸能研究協議会報告書』は、芸能部出版関係事業(芸 11)の一環として実施した。

・『東京文化財研究所年報』及び『東文研 NEWS』・『東京文化財研究所概要』は、広報企画事業(情 03)の一環として実施した。

・近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『未来につなぐ人類の技 5 大型建造物の保存と修復』

『Conservation of Railways II』は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究(修 01)の一環として実施した。

・第 13 回アジア文化財保存セミナー「アジア諸国の文化遺産の将来像と保護制度」報告書『Proceedings of the 13th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage, The Future Vision of Cultural Heritage and Protection Systems』は、アジア文化財保存セミナーの実施(セ 06)の一環として実施した。

・国際文化財保存修復研究会報告書『叢書 [文化財保護制度の研究] 中国石窟寺院の保存修復 その現状と課題 』『叢書 [文化財保護制度の研究] 文化的景観の成立、その変遷』『叢書 [文化財保護制度の研究] 文化的遺産の公開・活用と保存環境』は、国際文化財保存修復研究会の実施(セ 11)の一環として実施した。

・在外日本古美術修復協力事業報告書『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成 17 年度 (絵画 / 工芸品)』は、在外日本古美術品保存修復協力事業(修 05)の一環として実施した。

・『国宝 絹本著色十一面観音像』は、画像形成技術の開発に関する研究(情 01)の一環として実施した。

・『懐素自叙帖検測報告』は、画像形成技術の開発に関する研究(情 01)の一環として実施した。

・国際研修「漆の保存と修復」報告書『Urushi 2005, International Course on Conservation of Japanese Lacquer』は、国際研修 漆の保存と修復(修 14)の一環として実施した。

・イタリアにおける文化財保護制度と保存活用事例の調査研究報告書、叢書 [文化財保護制度の研究] 『イタリアの文化財保護制度の現在』は、文化財保存に関する国際情報の収集及び研究(ヨーロッパ諸国の文化財保護制度と活用事例)(セ 05)の一環として実施した。

- ・『重要美術作品資料集成に関する研究』は、東アジア地域における美術交流の研究 重要美術作品資料集成に関する研究（美03）の一環として実施した。
- ・『日本における外来美術の受容に関する調査・研究報告書』（*美01）は、東アジア地域における美術交流の研究 日本における外来美術の受容に関する調査・研究（美01）の一環として実施した。
- ・『近世輸出工芸品の調査研究Ⅱ』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（修05）の一環として実施した。
- ・『東アジア地域における美術交流の研究 中国壁画の研究』報告書 壁画・建築彩色データ集』は、東アジア地域における美術交流の研究 中国壁画の研究（美02）の一環として実施した。
- ・『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』は、我が国の近代美術の発達に関する調査・研究 日本近代美術の発達に関する調査・研究 昭和前期を中心に（美05）の一環として実施した。
- ・『柳澤孝仏教絵画史論集』は、光学的手法による美術工芸品の彩色に関する研究（美09）の一環として実施した。
- ・『日韓共同研究報告書 2005 「石造文化財の劣化と周辺環境』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（修03）の一環として実施した。
- ・『伝統的修復材料に関する調査研究Ⅳ』は、伝統的修復材料に関する研究（修06）の一環として実施した。
- ・『レーザーによる文化財クリーニングに関する報告書』は、レーザーによる文化財クリーニング法の開発研究（修07）の一環として実施した。
- ・『敦煌莫高窟壁画保存修復に関する日中共同研究 2005』は、敦煌莫高窟壁画の保存修復研究 日中共同研究（修02）の一環として実施した。
- ・『文化財の防災計画に関する研究 第1回研究会 文化財防災への道』は、文化財の防災計画に関する研究（修13）の一環として実施した。
- ・第14回アジア文化財保存セミナー「文化遺産とともに生きるアジア アジア 変革期における展望：その理論と概観」報告書『Proceedings of the 14th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage, Living with Cultural Heritage Asia, perspectives at changing period: Theories and outline』は、アジア文化財保存セミナーの実施（セ06）の一環として実施した。
- ・『藤間清寄贈図書目録』は、所蔵目録出版・バーコード化（情05）の一環として実施した。
- ・『第35回文化財保存修復研究協議会 伝統的日本画修復材料への科学的アプローチ～近年の動向～』は、文化財保存修復研究協議会（修16）の一環として実施した。

『美術研究』(美 14-05-5/5)

1932(昭和7)年1月、東京文化財研究所の前身である美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、75年にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関連する西洋美術について、論文・図版解説・研究資料を掲載している。年3冊刊行。平成15年度より新たに、研究ノート、書評、展覧会評を掲載して誌面の充実化をはかっている。本年度は以下のとおり386号、387号、388号を刊行した。

『美術研究』386号(17年度第1冊/2005年6月刊行)

綿田 稔 崇福寺蔵「二十八祖像」をめぐって 雲谷等益、明兆から雪舟、文清まで

クリストフ・マルケ エマニュエル・トロンコワと明治中期の洋画壇

小林 宏光 展覧会評「南宋絵画 才情雅致の世界」展

表 智之 書評 明治初頭期における古物趣味の持続と転回 鈴木廣之『好古家たちの19世紀』によせて

並木 誠士 書評 高岸輝『室町絵画と王権 初期土佐派研究』



『美術研究』

『美術研究』387号(17年度第2冊/2005年10月刊行)

鶴田 武良 中華民国教育部第一次全国美術展覧会出品日本洋画について 近百年來中国絵画史研究 八

田中 淳 展覧会評 昭和前期の絵画をめぐって

名児耶 明 展覧会評「古写経」特別展に思うこと

荒屋鋪 透 書評 パリー九〇〇年・日本人留学生の交遊 『パンテオン会雑誌』資料と研究

臺信 祐爾 研究資料 公刊『黒田清輝日記』(上)

『美術研究』388号(17年度第3冊/2006年2月刊行)

クリスティーン・グーテ/鈴木廣之訳 異文化評価におけることばの重み 一九世紀欧米のキュリオシティー、キュリオと日本

金 英 那/喜多恵美子訳 李仁星の郷土色-民族主義と植民主義-

塩谷 純 図版解説 狩野勝川院雅信《龍田図屏風》ジュネーヴ パウアー・コレクション

綿田 稔 展覧会評 墨黒の悩ましい存在感 「高田敬輔と小泉斐」展を観て

戸田 禎佑 展覧会評「明代絵画と雪舟」展

臺信 祐爾 研究資料 公刊『黒田清輝日記』(中)

『日本美術年鑑』(美 10-05-5/5)

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が昭和11年から始めた「日本美術年鑑」の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成14年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成16年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成16年版は、下記のような構成をとり、B5版308ページとなった。

2003(平成15)年美術界年史

美術展覧会(企画展、作家展、団体展)

美術文献目録

定期刊行物所載文献

美術展覧会図録所載文献(企画展、作家展)

物故者



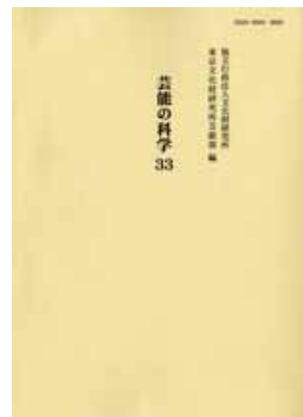
『日本美術年鑑』

『**芸能の科学**』(芸 11-05-5/5 : 芸能部出版関係事業の一環として実施)

古典芸能や民俗芸能に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『**芸能の科学**』第 33 号

- 南北朝・室町期の豊原家笙譜による「朗詠伽陀付物」小考 近藤 静乃
調査報告・現存する一節切 高桑いづみ・野川美穂子
正倉院と虚無僧尺八のはざままで
勸進能小考 『わらんべ草』四十五段より 中司由起子
「その他」の鹿島踊 祭礼行列に出る鹿島踊・弥勒踊を中心に 俵 木 悟
無形の文化財の保護をめぐる 特に、民俗芸能を中心に 大島 暁雄
〔聞き書き〕人形浄瑠璃文楽の昭和から平成へ 吉田文雀師に聞く 鎌倉 恵子
国立音楽大学附属図書館寄贈
竹内道敬旧蔵音盤目録(1) 飯 島 満
東京文化財研究所芸能部所蔵
五代目尾上菊五郎舞台扮装写真 飯 島 満・埋忠 美沙



『**芸能の科学**』

『**保存科学**』(保 09-05-5/5)

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。

『**保存科学**』第 45 号

- バーミヤーン仏教壁画の材質分析(1) クロスセクションによる彩色技法の調査 谷口陽子、大竹秀実、前田耕作
バーミヤーン遺跡における環境調査(1) 外部環境と石窟内の温湿度環境 宇野朋子、谷口陽子、大竹秀実、青木繁夫
バーミヤーン仏教壁画の保存修復(1) グラウティングによる応急処置 大竹秀実、谷口陽子、青木繁夫
タイ国スコータイ遺跡における大仏の保存修復 表面水分量と藻類等の繁殖に関するモデル柱における実験 宇野朋子、石崎武志、西浦忠輝、チラポーン・アランヤナーク
高松塚古墳の微生物対策の経緯と現状 木川りか、佐野千絵、石崎武志、三浦定俊
高松塚古墳墳丘部の生物対策としての冷却方法の検討 石崎武志、三浦定俊、犬塚将英、カリル・マグディ
高松塚古墳墳丘部の土質および水分分布調査 石崎武志、犬塚将英、三村衛
キトラ古墳保護覆屋内の環境について 温度・湿度と炭酸ガス濃度 佐野千絵、犬塚将英、吉田直人、森井順之、加藤雅人、村上隆、高妻洋成、降幡順子、肥塚隆保、石崎武志、三浦定俊
キトラ古墳における菌類等生物調査報告(2) 木川りか、間瀬創、佐野千絵、三浦定俊
古墳の保存と活用のための生物等被害状況アンケート調査 九州 佐野千絵、石崎武志、三浦定俊
ガス電子増幅フォイルを用いた文化財調査用X線検出器の開発 犬塚将英
透過X線撮影におけるフィルムとIPの特性曲線の比較 松島朝秀、三浦定俊
紫外・可視反射スペクトル法による染料非破壊分析のための基礎研究(2) 緑色系漆に用いられるインディゴの検出 吉田直人、三浦定俊
ポータブル・マルチLED分光装置の試作と蛍光スペクトル法による水彩絵の具同定への応用 北見周子、横島瑛莉奈、岡村秀樹、佐野千絵



『**保存科学**』

- 根津美術館所蔵燕子花図屏風の X 線分析 早川泰弘、松島朝秀、三浦定俊
 「独々涅烏斯（ドドネウス）草木譜」原本の科学的調査（1） 吉田直人、加藤雅人、佐々木良子、吉川也志保、岡本幸治
 古代地方寺院の外装塗装の色について 朽津信明
 漆芸技法に用いられる金属への文化財燻蒸薬剤の残留影響評価 臭化メチル・酸化エチレン製剤の影響 神谷嘉美、加藤寛、佐野千絵
 文化財公開施設内生物調査における浮遊菌測定手法の検討 間淵創、小鷲悠、篠原史彦、岩田利枝、木川りか、佐野千絵
 展示ケース、展示施設の換気回数測定のための基礎実験 犬塚将英、石崎武志
 文化財公開施設の空気環境評価における変色試験法の再評価 パッシブインジケータ®との相関 佐野千絵、吉田直人、石崎武志
 熊本城「細川家舟屋形」の保存環境に関する研究 石崎武志、白石靖幸、肥塚祐美子
 「北海道開拓の村」の歴史的建造物の壁面劣化調査 高見雅三、石崎武志
 劣化した漆塗膜に対する強化手法の外観への影響 神谷嘉美、加藤寛
 厳島神社丹塗柱の退色と柱内水分量の相関 森井順之
 鎌倉市百八やぐらにおける乾湿繰り返しと岩石風化について 朽津信明、関博充、陳建平
 展示公開施設の館内環境調査報告 平成 16 年度 吉田直人、佐野千絵、石崎武志

『東京文化財研究所年報』（情 03 の一環として実施）
 広報企画事業（情 03）の一環として実施した（69 頁参照）

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『未来につなぐ人類の技 5 大型建造物の保存と修復』（修 01 の一環として実施）

はじめに

刊行にあたって

目次

<Part. 1 日本の大型建造物の保存修復と活用>

近代化遺産の文化財保護をとりまく現状と課題

大型建造物の保存の問題点

重要文化財碓氷峠鉄道施設の保存修復

近代化遺産の保存と利活用

要塞砲台の建設経緯と残存状況

近代化遺産としてのドライドック

<Part. 2 ヨーロッパにみる大型建造物の保存修復と活用>

大都市における保護対象鉄道の運用 ベルリンの都市鉄道システム

貴重な土木建造物 修復と維持管理の問題

大型産業遺産の保存 ヨーロッパにおける事例研究

ドイツにおける三つの土木工学的指標 保存・修復・活用

大型建造物の現地調査

大型建造物の保存に関する話

編集後記

北河大次郎

川野邊 渉

森井 順之

伊藤 孝

原 剛

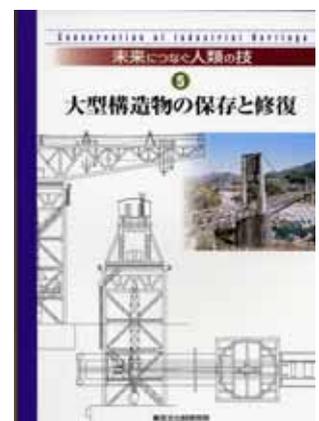
西澤 泰彦

アルフレッド・ゴットヴァルト

ノルベルト・テンペル

ハンス・ピーター・ベルチ

ロルフ・ホーマン



未来につなぐ人類の技 5
 大型建造物の保存と修復

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書 『Conservation of Railways II』(修 01 の一環として実施)

Foreword

About This Booklet

<Part. 1 Restoration, Preservation and Utilization of Railway Facilities >

Restoration and Conservation of Railway Facilities as Cultural Properties

Kawanobe, Wataru

The State of Conservation of Railway Heritage in Japan

Yamato, Satoshi

Utilization of Regional Railway Heritage

Tsutsumi, Ichiro

Case Study on Railway Bridge Preservation

Konishi, Jun'ichi

Railway Tunnels in a Civil Engineering Historical Context

Onoda, Shigeru

<Part. 2 Restoration, Preservation and Utilization of Railway Artifacts in Europe >

>

Some Experiences with Historic Railway Architecture

at the Berlin Museum of Transportation and Technology, Germany

Alfred Gottwaldt

Displays in Context; Permanent Way and Historic Railway Stock

Four hundred years of reducing rolling resistance

Jim Rees

Preservation of Railway Constructions and Rolling Stock in Switzerland

Hans-Peter Bärtschi

Conservation and Protection of Historic Railway Infrastructure in Germany

Rolf Höhmann

<Part. 3 The Importance of Restoration and Preservation of Railway Artifacts at the York Railway Museum >

The National Railway Museum and Japan

Suga, Tatsuhiko

A Review of the Management of the Railway Heritage in the UK

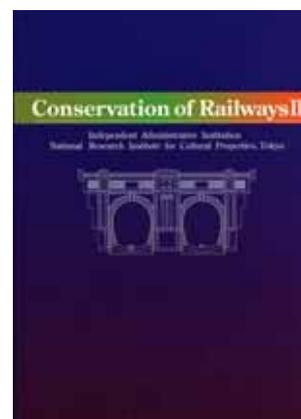
Andrew John Scott

Collections Management and Conservation at the National Railway Museum

Helen Ashby

Visits to Railway Facilities in Japan

Editor's Postscript



Conservation of Railways II

第 28 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書

『The 28th International Symposium on Conservation and Restoration of Cultural Property,

Non-destructive Examination of Cultural Objects Recent Advances in X-ray Analysis 』(保 20-05-1/1)

2004 (平成 16) 年 12 月 1 日から 3 日まで、東京都美術館にて開催した第 28 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「文化財の非破壊調査法 X 線分析の最前線」(保存科学部担当)の報告書を下記の内容で刊行した。

Opening Address: Norio Suzuki

<Keynote Lectures>

Methods of Quantitation in X-Ray Analysis of Objects in Art and Archaeometry: Michael Mantler

The Study of Fine-Arts History and the Newest Scientific Method: Yoshitaka Ariga

<Session1: Non-Destructive Analysis by X-Ray Instruments>

On Miniaturized Equipment and Microsamples: XRF and XRD at CCI: Marie-Claude Corbeil

Chemical Properties and Reuse of Old Iron Nails for Roofing Tiles: Shoji Hirai

Chemical Composition of Cultural Objects and their Technique– Application of X-Ray Fluorescence Method –: Yoshimitsu Hirao

Application of Scanning Electron Microscopy and X-Ray Fluorescence Spectroscopy to Korean Museum: Gyu-Ho Kim

<Session 2: *In-situ* Analysis of Cultural Objects>

In-situ XRF Analysis of Raw Pigments and Traces of Polychromy on Marble

Sculpture Surfaces, Possibilities and Limitations: Andreas G. Karydas

Portable X-Ray Fluorescence and Powder Diffraction Analyses of Archaeological Artifacts at Excavation Sites in Egypt: Izumi Nakai

Instrumentation, Methodology and Software Developed for Non-Destructive Study by EDXRF of Cultural Objects: José L. Ferrero

X-ray Fluorescence Analysis of Mural Paintings in the Takamatsuzuka Tumulus: Yasuhiro Hayakawa

Image Production of the Mural Paintings of the Takamatsuzuka Tumulus: Seiji Shirono

Material Research of Onna-norimono by using a Portable XRF: Shingo Hidaka

The Analysis of the Painting of Jeng Cherng-Gong and the National Flag of The Republic of Taiwan Collected in the National Taiwan Museum: Ming-Shui Cheng

<Session 3: Application of Non-destructive Analysis>

Research on the Environmental Influence on Materials of Cultural Properties: From the Viewpoint of The Non-Destroying Investigation by X-ray Analysis of Cultural Properties: Shuji Ninomiya

The Achievements and Challenges of Dunhuang Wall Painting Pigment Analysis: Bo-Ming Su

Non-Destructive Analysis of Blue Colouring Matters Found in Traditional Japanese Ukiyo-e Prints: Susumu Shimoyama

Non-Destructive Analysis of Archaeological Objects –Laser Raman Spectroscopy–: Yohsei Kohdzuma

Possibility of Non-Destructive Dye Analysis by UV-Visible Spectroscopy: Naoto Yoshida



第 28 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告

第 13 回アジア文化財保存セミナー報告書 (英文) (セ 06 の一環として実施)

Proceedings of the 13th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage, The Future Vision of Cultural Heritage and Protection Systems

2004 (平成 16) 年 10 月 25 日 (月) ~ 29 日 (金) に実施された「第 13 回アジア文化財保存セミナー」の報告書である。このセミナーは平成 13 年度から 5 年間の予定で「アジア諸国の文化財保護制度」をテーマとして行われているが、当該年度は「アジア諸国の文化遺産の将来像と保護制度」をテーマとして報告と討議が行われた。この報告書は、各国専門家の発表と、質疑応答の内容をまとめたものである。

[目次]

PROGRAM

Country Report of Japan (OKADA Ken)

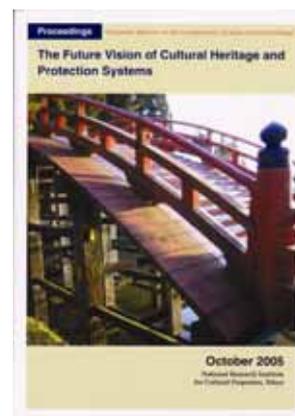
Forms of Cultural Heritage That Continue in the Future: Japan's Case

Country Report of Korea (KIM Gwongu)

The Critical Reevaluation of the Korean Heritage Protection System and its Future Vision

Country Report of China (LÜ Zhou)

A Tentative Plan Concerning the Adjustment of the Chinese Cultural Heritage Conservation System



第 13 回アジア文化財保存セミナー報告書

- Country Report of Vietnam (NGUYEN Quoc Hung)
Future Vision of Cultural Heritage and Protection Systems in Vietnam
- Country Report of Thailand (Pichya BOONPINON)
Proposal of Cultural Heritage Management System in Thailand
- Country Report of Philippines (Emelita V. ALMOSARA)
The Future Vision of Cultural Heritage and Protection System in the Philippines
- Country Report of Iran (Adel FARHANGI SHABESTARI)
The Basic Elements of the Future Vision of Cultural Heritage and Protection Systems
- Country Report of India (Amita BAIG)
Developing New Paradigms
- Country Report of Sri Lanka (Jagath WEERASINGHE)
Some Thoughts for the 'Future' of Conservation of Cultural Property in Sri Lanka
- Overall Discussion
- ANNEX
- Excursion (Koyasan)
- Photos
- List of Participants

国際文化財保存修復研究会報告書（セ11の一環として実施）

この報告書は、国際文化財保存修復研究会で行われた報告、質疑応答、総合討議等の内容をまとめたものである。平成17年度は第17回、第18回、第19回研究会について、それぞれ報告書を作成した。

第17回国際文化財保存修復研究会報告書（2005年10月発行）

叢書 [文化財保護制度の研究] 中国石窟寺院の保存修復 その現状と課題

[目次]

[序] 岡田 健

[開会挨拶・趣旨説明] 岡田 健

[1] 講演

「中国石窟寺院の文化的価値と保護の意味」 岡田 健

「中国における石窟寺院の保存修復について」 黄克忠

「敦煌石窟保護の現状と課題」 蘇伯民

「陝西彬県大仏寺の保存修復事業について」 馬濤

「ユネスコの中国石窟寺院保護事業について」 杜曉帆

[2] 総合討議と総括

「総合討議」

「研究会総括」「中国石窟寺院保護、その国際共同の新しい姿」 岡田 健

[発表者紹介]

[参加者名簿]

第18回国際文化財保存修復研究会報告書（2006年3月発行）

叢書 [文化財保護制度の研究] 文化的景観の成立、その変遷

[目次]

[序] 岡田 健

[開会挨拶・趣旨説明] 岡田 健

[1] 講演と質疑応答



第17回国際文化財保存修復研究会報告書



第18回国際文化財保存修復研究会報告書

- 「イラン・ギャルラズ渓谷の文化的景観の出現と変遷」 山内和也
 「江戸 東京における都市景観の変遷」 津村宏臣
 「棚田景観にみる歴史性と文化性の相違 中国・雲南省紅河州者米におけるタイ族・ヤオ族・アール族」
 篠原 徹

〔2〕総合討議と研究会総括

- 「総合討議」
 「研究会総括」「人間と景観のかかわり、そのあり方」 岡田 健
 [発表者紹介]
 [参加者名簿]

第19回国際文化財保存修復研究会報告書(2006年3月発行)

叢書 [文化財保護制度の研究] 文化遺産の公開・活用と保存環境

[目次]

[序] 岡田 健

[開会挨拶・趣旨説明] 朽津信明

〔1〕講演と質疑応答

「フゴッペ洞窟の公開に伴う光制御」 浅野敏昭・朽津信明

「大規模な内部空間の公開と保存：ハギア・ソフィア大聖堂の内部微気候」

日高健一郎

「古墳整備における遺構の公開 西都原古墳群の事例を中心として」 甲斐章子

「パラオにおける日本統治時代の建築物の活用と保存」

辻原万規彦

〔2〕総合討議と研究会総括

「総合討議」

「研究会総括」「保存環境研究」が置かれている環境」 朽津信明

[発表者紹介]

[参加者名簿]



第19回国際文化財保存修復研究会報告書

『民俗芸能研究協議会報告書』(芸 11-05-5/5：芸能部出版関係事業の一環として実施)

芸能部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して民俗芸能の保護と継承について研究協議する会を開催している。第8回に当たる本年度は「無形民俗文化財の映像記録作成」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

テーマ「無形民俗文化財の映像記録作成」

- ・序にかえて 鈴木規夫(東京文化財研究所長)
- ・趣旨説明 俵木悟(東京文化財研究所芸能部)
- ・報告

*報告1 民俗文化財映像記録のねらいと枠組み

大島暁雄(東京文化財研究所客員研究員)

*報告2 映像記録作成の準備と事前調査

大日野佳代子(株式会社ポルケ) *報告3 映像記録の制作実務に関する諸問題 取材・制作ス

タッフと機材

*報告3 映像記録の制作実務に関する諸問題 取材・制作スタッフと機材

阿部武司(東北文化財映像研究所)



民俗芸能研究協議会報告

- * 報告 4 撮影・編集に際して心がけること
中藪規正（株式会社ポルケ）
- * 報告 5 映像記録のこれからの課題 有効な保存と活用に向けて
俵木悟（東京文化財研究所芸能部）
- ・ 総合討議
- ・ 参考資料
- ・ アンケート集計結果
- ・ あとがき

在外日本古美術修復協力事業報告書

『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成 17 年度(絵画 / 工芸品)』(修 05 の一環として実施)

平成 17 年度、在外日本古美術品保存修復協力事業の対象作品の修復に関する報告。
2006（平成 18）年 3 月 31 日発行。

目次

報告書の刊行にあたって	鈴木 規夫
在外日本古美術品の事業報告	小野 吉彦
保存修復協力事業 / 所蔵博物館一覧 / 現地作品調査 〔 絵画篇 〕	
カラー口絵	
勝川春章筆 春駒図	
修理報告	半田 昌規
作品解説	鈴木 廣之
葛飾北斎筆 大原女図	
修理報告	半田 昌規
作品解説	鈴木 廣之
金剛童子像	
修理報告	杉山 恵助
作品解説	勝木言一郎
諸尊集会図	
修理報告	藤岡 春樹
作品解説	津田 徹英
〔 工芸品篇 〕	
カラー口絵	
「猩々漆絵油壺 修理報告(要旨)」 クリーブランド美術館	北村 繁
「和歌浦蒔絵十種香箱」 ピーボディ・エセックス博物館	松本 達弥



在外日本古美術
修復協力事業報告書

蔵書目録 (情 05-05-5/5)

現在、東京文化財研究所が所蔵する図書は約 117,000 万冊、雑誌は約 3,200 種 9 4,000 万冊を数えている。資料閲覧室では、所蔵図書資料の目録作成を 5 年計画で進めており、既刊の『東京文化財研究所蔵書目録 1 西洋美術関係』(2002 年 3 月刊)、『東京文化財研究所蔵書目録 2 日本東洋近現代美術関係』(2003 年 3 月刊)、『東京文化財研究所蔵書目録 3 日本東洋古美術関係 和文編』(2004 年 3 月刊)、『東京文化財研究所蔵書目録 4 日本東洋古美術関係 欧文編』(2004 年 6 月刊)、『東京文化財研究所蔵書目録 5 和雑誌』(上) 目録編 (下) 索引編 2 分冊 (2005 年 3 月刊) に続いて、2005 年度は、『東京文化財研究所蔵書目録 6 展覧会カタログ』(上) 目録編 (下) 索引編 2

分冊（2006年3月刊）を刊行した。

『6 展覧会カタログ』は「目録編」（口絵62点、601頁）と「索引編」（509頁）の2分冊とした。「目録編」は所蔵する展覧会カタログの中から48点の表紙を関連する図書や新聞記事などを交えて口絵で紹介し、東京芸術大学助教授佐藤道信氏の序に続いて、全21,744冊の所蔵展覧会カタログを企画展、団体・連続展に分けて開催年月日順に配列し、会期、会場、巡回先の情報を収録した。「索引編」は上巻に掲載した21,744件のなかから、団体・連続展4,122件を除いた17,622件について、会場別、作家名別、展覧会名別の3種の索引を収録した。なお、国内外の主要な美術館博物館をはじめ、関連する諸機関（675件）へ配布した。



『東京文化財研究所蔵書目録6 (上)展覧会カタログ 目録編』

研究組織

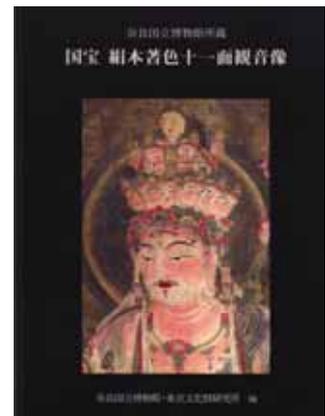
山梨絵美子、皿井 舞、江村 知子、中村 節子（以上、協力調整官 情報調整室）

『国宝 絹本著色十一面観音像』（情01の一環として実施）

奈良国立博物館と共同で行っている彩色仏画の研究の一環として実施した「絹本著色十一面観音像」（奈良国立博物館蔵）の調査研究の成果を以下の内容で同館と共同で刊行した（B4版、本文36頁、カラー図版45頁）

【目次】

刊行にあたって	奈良国立博物館館長	湯山 賢一
刊行にあたって	東京文化財研究所所長	鈴木 規夫
国宝絹本著色十一面観音像		梶谷 亮治
彩色と文様の技法		谷口 耕生
文化財研究におけるデジタルアーカイブ形成の意義	情報の総合的蓄積と共有に	宮崎 幹子
むけて		早川 泰弘
蛍光X線分析による彩色材料の調査結果について		城野 誠治
画像解説		皿井 舞
用語解説		
Summaries		



『国宝 絹本著色十一面観音像』

『懷素自叙帖検測報告』（情01の一環として実施）

國立故宮博物院の依頼により平成16年度に行った当代草書の優品とされる「懷素自叙帖」の調査研究成果を以下の内容で同院と共同で刊行した（A4版、本文45頁〔中・和対訳〕カラー図版33頁）

院長序	國立故宮博物院長	石 守謙
東京文化財研究所長序	東京文化財研究所長	鈴木 規夫
図版		
検査の趣旨		
自叙帖本巻および関連する諸問題		
光学的検査方法の紹介		城野 誠治
自叙帖本巻検査過程の要点		
検査結果とその分析		
本件の効果の検討		



『懷素自叙帖検測報告』

第34回文化財保存修復研究協議会報告書『文化財の調査研究および保護に対する地理情報システムの利用』（セ34-05-1/1）

平成16年度に国際文化財保存修復協力センターの主催で開催した、第34回文化財保存修復研究協議会「文化財の調査研究および保護に対する地理情報システムの利用」の報告書を作成した。

地理情報システム（以下、GIS）は緯度・経度、住所など位置情報を持った事物をデータベース化し、管理・分析を行うしくみである。文化財は、過去の人々が周囲の環境と関わりながら活動した証拠である。そのため、文化財を扱う考古学・美術史学・建築学などの研究において、文化財が作り出され、保存されてきた環境を考慮することは欠かせない。また、文化財の保存管理計画を考える際にも、文化財の立地条件を検討することなく計画を立案・実行することはできない。したがって、上記のような文化財に関する調査研究や事業において、位置情報を用いてさまざまなデータを扱うことのできるGISはたいへん有用なツールといえる。しかし、日本では埋蔵文化財以外の分野でのGISの利用はまだ始まったばかりである。今後、GISは文化財研究および文化財保護の分野において、ますます需要が増えることが予想され、さらに他分野との連携を図ることで、文化財分野におけるGISを用いた調査研究・事業のいっそうの進展が可能となると考えている。

この報告書は、現在GISを文化財分野で積極的に活用している国内外の6名の専門家により協議会の場で発表された、最新の研究動向をまとめたものである。なお、英文・仏文による報告では和訳と原文を併記し、和文の報告には英文アブストラクトを添付した。



第34回文化財保存修復研究協議会報告書

目次

序	青木繁夫（東京文化財研究所）
文化財保存修復分野におけるGISの利用	碓井照子（奈良大学）
文化財と時空間情報科学 文化財研究のためのGIS入門	津村宏臣（同志社大学）
文化財防災へのGISの利用 文化財の地震危険度評価を中心に	二神葉子（東京文化財研究所）・隈元崇（岡山大学）
金沢のGIS 歴史遺産データベースについて	宮下智裕（金沢工業大学）
コンフラン・サン・トノリーヌの台帳とその地理情報システム（GIS）	ロズリーヌ・ビュシエール（イル・ドゥ・フランス地方圏文化局）
世界遺産の管理と保護に適用される情報システム	マリオ・サンタナ・キンテロ（世界遺産センター）

国際研修「漆の保存と修復」報告書（修14の一環として実施）
『Urushi 2005, International Course on Conservation of Japanese Lacquer』

CONTENTS

On the Publication of the Report on URUSHI 2005, International Course on Conservation of Japanese Lacquer（刊行にあたって）

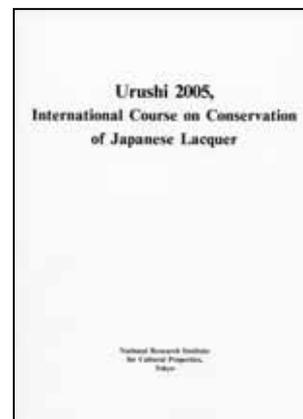
Schedule（研修日程）

List of Participants（研修生リスト）

List of Lecturers（講師リスト）

【Lectures（講義）】

The Story of Japanese Lacquerware（日本の漆芸品）



国際研修「漆の保存と修復」報告書

KATO Hiroshi (加藤 寛)

The History of Urushi Art in Japan -from the Cradle to the Kamakura Period-

(日本漆芸の歴史 揺籃期から鎌倉期まで)

TAKAHASHI Takahiro (高橋 隆博)

Japanese Lacquer Carving (Tsuishu) Technique (彫漆の歴史と名称について)

MATSUMOTO Tatsuya (松本 達弥)

Report on the Restoration of "Aogai-zaiku Kiserudai" in the Collection of Nagasaki City Museum

(長崎市立博物館「青貝細工煙管台」の保存修理について)

TAGUCHI Yoshiaki (田口 義明)

Japanese Makie Technique (蒔絵について)

KATSUMATA Satoshi (勝又 智志)

Radiography of Urushiware (光学的手法で見る漆器)

MIURA Sadatoshi (三浦 定俊)

On the Restoration of the "Shojo Urushi-e Aburatsubo"

in the Collection of The Cleveland Museum of Art, Ohio, U.S.A

(クリーブランド美術館蔵 猩々漆絵油壺 修理報告)

KITAMURA Shigeru (北村 繁)

Japanese Lacquerware in Foreign Collections (海外にある漆芸品の保存)

NAGASHIMA Meiko (永島 明子)

Traditional Method of Handling Objects in Japan (作品の取り扱い・パッキング)

IWABUCHI Tateo (岩淵 建夫)

【Practical Work (実技)】

Coached by MATSUMOTO Tatsuya, TAGUCHI Yoshiaki and KATSUMATA Satoshi

Orientation to Japanese Urushi Restoration (漆芸品の修復について)

MATSUMOTO Tatsuya (松本 達弥)

Normal Process of Restoration (一般的な修理工程)

Explanation of Tools (道具の説明)

Cleaning (クリーニング)

Facing (養生)

Urushi gatame (漆固め)

Reinforcement of the foundation (下地の強化)

Impregnation of Mugiurushi and Press Stabilization (麦漆による接着)

Adherence with Animal Glue (膠による接着)

Application of Kokuso (刻苧)

Makiji (蒔地)

Consolidation (固め)

Kiwasabi (際錆)

【Excursion to Kiso (研修旅行・木曾)】

【Presentations (プレゼンテーション)】

Isabel ALONSO GONZÁLEZ / Francesco CIVITA / Lisa ELLIS / Jürgen HUBER / Christiane JORGEN / Yahui

LIU ZHOU / Helen Olivia LOVEDAY / Delphine MESMAEKER / Stefania PANDOZY

【Final Comments (総評)】

Reference materials (参考資料)

Illustrations (イラスト集)

Glossary (用語集)

イタリアにおける文化財保護制度と保存活用事例の調査研究報告書（セ05の一環として実施）
叢書 [文化財保護制度の研究] 『イタリアの文化財保護制度の現在』

[目次]

研究の概要

文化財保護制度：総論

イタリア文化財保護制度の現在 稲葉信子

イタリア文化遺産の売却 デニーセ・ラ＝モニカ/エマヌエーレ・ペレグリーニ

文化財保護の組織と職能

文化財監督局 トスカーナ州、フィレンツェの例 大竹秀実

国立修復研究所 大竹秀実

イタリアにおける「文化財修復士」の資格 大竹秀実、二神葉子

文化財のカタログニングとデータベース

イタリアにおける文化財のカタログニング 大竹秀実

文化財危険地図 二神葉子、大竹秀実

考古遺跡の保存と活用

イタリア考古遺跡の保存の現在 - ローマ市の事例を中心に 二神葉子

ポンペイ遺跡の管理・運営・活用について 清永洋平、粟野隆

文化的景観および産業遺産の保存

シチリア・トラパニの塩田にみられる文化的景観の保護 ウーゴ・ミズコ

美味しい天然塩と文化的景観の保護

シチリア州トラパニとパチェーコの塩田における多様な保護の取り組み 平賀あまな

自然保護地区設立のためのシチリア、イタリア、およびヨーロッパの法律 サルバトーレ・リプレリ＝コンソレ

トラパニ塩田とパチェーコ塩田 - エコロジーと経済のはざまにある保護区 アンジェロ・トロイーア

イタリアと日本における文化的景観の保存 マッテオ・ダリオ＝パオルッチ

イタリアに於ける産業遺産の保全と活用

鳥海基樹

資料編

イタリア保護制度概略年表

大竹秀実

文化財景観法典

今井健一郎、大竹秀実、二神葉子、稲葉信子

文化財・文化活動省の組織

大竹秀実

イタリアの「1972年修復憲章について」

大竹秀実

翻訳「1972年修復憲章について」

森田義之、大竹秀実

センター所蔵イタリア関連文献リスト

二神葉子

現地調査および講演会概要

大竹秀実、二神葉子

『重要美術作品資料集成に関する研究』（美03の一環として実施）

美術部のプロジェクト「東アジア地域における美術交流の研究 重要美術作品資料集成に関する研究」の一環として、既刊の『美術研究作品資料』3冊を踏まえ、それぞれの著者が問題点を総括するとともに、現在取り組んでいる研究の概要を報告しつつ、美術資料学の展望をも報告書に示した。

中野 照男 はじめに

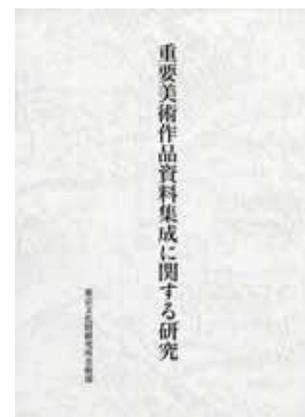
鈴木 廣之 【総論】：『美術研究作品資料』の刊行をふり返って

山梨絵美子 【各論：美術研究作品資料第1冊】 『黒田清輝《智・感・情》』の赤外線撮影・調査



イタリアにおける文化財保護制度と保存活用事例の調査研究報告書

- 岡田 健 【各論：美術研究作品資料第2冊】 『東寺観智院蔵五大虚空蔵菩薩像』について
- 田中 淳 【各論：美術研究作品資料第3冊】 『青木繁《海の幸》』のねらい
- 田中 淳 「湖畔」物語（中間報告）
- 津田 徹英 龍華寺菩薩半跏像の調査・研究（中間報告）
- 皿井 舞 文化財アーカイブの構築 美術史における資料学との関わりから
- 鈴木 廣之 新しい美術資料学にむけて これからの課題



『重要美術作品資料集成に関する研究』

『日本における外来美術の受容に関する調査・研究報告書』（美01の一環として実施）

平成13年度より開始した美術部の研究プロジェクト「東アジア地域における美術交流の研究 日本における外来美術の受容に関する調査・研究」の報告書として、これまでに実施してきたミニ・シンポジウム、美術部オープンレクチャー等における口頭発表をテキスト化し、各発表者の校閲の後、内容を考慮したうえで再編集し、下記の目次のとおり6章に構成して刊行した。（A4版、本文336頁）
（各発表者の所属は、発表時のものである）



目次

- まえがき 中野照男（美術部）
- 序文 鈴木廣之（美術部）

1. 異文化の理解と受容

異文化の模倣・増幅・拒絶—日中間における涅槃表現の流通と変容

井手誠之輔（協力調整官 情報調整室）

『日本における外来美術の受容に関する調査・研究報告書』

テキスト vs. イメージ—『図絵宝鑑』と14・15世紀における中国絵画に対する日本の反応に関する諸問題

石守謙（国立故宫博物院・国立台湾大学）

日本の外国文化理解—人よりモノ、外交より貿易中心の

佐藤道信（東京藝術大学）

The Loaded Language of Cross-Cultural Evaluation（文化間評価の偏りあることば）

クリスティン・ゲース（スタンフォード大学）

2. 人の往来

雪舟入明を考える

綿田稔（協力調整官 情報調整室）

江戸時代における朝鮮画の接触と救得の意図—朝鮮通信使を中心に

洪善杓（梨花女子大学校・韓国美術研究所）

黒田清輝と世紀末のパリ—西洋人からの書簡を通して

小山ブリジット（武蔵大学）

明治30年の黒田清輝

田中淳（美術部）

明治絵画再考—青木繁を中心に

田中淳（美術部）

日本・藤田嗣治・フランス

林洋子（京都造形芸術大学）

藤島武二の〈東洋〉

児島薫（実践女子大学）

3. モノの往来

高麗初期石造菩薩像について

崔聖銀（徳成女子大学校）

コメンテーター：朴亨國（武蔵野美術大学）

日本に請来された宋時代の版画

初期水墨画と宋風

宋風彫刻の基本的問題

仏教絵画における宋風について

鎌倉地方における宋風

4. メディアの役割

日本における浄土図の受容と展開—法隆寺金堂壁画の図像を中心に

日本における阿修羅像の図像の受容について

白衣観音の行方

中世の仏伝図と東アジア

経を写す、絵を写す

古代日本における極楽イメージの変容

中世における中国道教神の受容をめぐる

韓国と日本の女神像の初期図像

5. 新旧の出会いと葛藤

司馬江漢の風景表現をめぐる

江戸時代の異国趣味—南蘋風大流行

「物はやりする」画家たち—江戸時代絵画の中の唐絵

幕末に人はなぜ絵を見たか

開成所画学局再考

黒田清輝—日本の裸婦をどう描くか

川端玉章について 円山派の近代

受容の往還：1910～20年代、日本絵画界における東洋的傾向について

韓国美術における近代：模範とすべきあるいは超克すべきモデルとしての西洋

モダニティーと伝統 嘉義出身の三人の美術家の物語顔娟英

討議

6. 近代美術史への眼

エドワード・モースと蜷川式胤—明治初期の美術研究と交流

大谷光瑞と仏教の流伝調査

若き美術史研究者の夢—尾高鮮之助の旅と仕事

『近世輸出工芸品の調査研究 II』(修 05 の一環として実施)

刊行にあたって

平成 17 年度在外日本古美術品保存修復協力事業現地調査(工芸)

加藤 寛

平成 17 年度近世輸出工芸品の調査研究会 講演記録

「柴田是真の作品について」

高尾 曜

論考「柴田是真の作品について」

高尾 曜

アンケート結果(平成 17 年度)

内田啓一(昭和女子大学)

島尾新(美術部)

山本勉(東京国立博物館)

林温(文化庁)

津田徹英(美術部)

勝木言一郎(美術部)

水野さや(日本学術振興会特別研究員)

津田徹英(美術部)

中野照男(美術部)

須藤弘敏(弘前大学)

勝木言一郎(美術部)

津田徹英(美術部)

朴亨國(武蔵野美術大学)

金子信久(府中市美術館)

伊藤紫織(千葉市美術館)

成澤勝嗣(神戸市立博物館)

ロバート・キャンベル(東京大学)

山梨絵美子(美術部)

山梨絵美子(美術部)

塩谷純(美術部)

山梨絵美子(情報調整室)

金英那(ソウル国立大学校)

(中央研究院歴史語言研究所・

国立台湾大学芸術史研究所)

鈴木廣之(美術部)

臺信祐爾(九州国立博物館設立準備室)

中野照男(美術部)



『近世輸出工芸品の調査研究 II』

『「東アジア地域における美術交流の研究 中国壁画の研究」報告書 壁画・建築彩色データ集』(美 02 の一環として実施)

美術部のプロジェクト「東アジア地域における美術交流の研究 中国壁画の研究」の一環として、中国所在の壁画・建築彩色のデータ集を作成した。

- はじめに
- 凡例
- 壁画・建築彩色データ
 - a. 吉林
 - b. 天津
 - c. 内蒙古
 - d. 河南
 - e. 湖北
 - f. 湖南
 - g. 広東
 - h. 雲南
 - i. 青海
 - j. 陝西



『「東アジア地域における美術交流の研究 中国壁画の研究」報告書 壁画・建築彩色データ集』

『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』(美 05 の一環として実施)

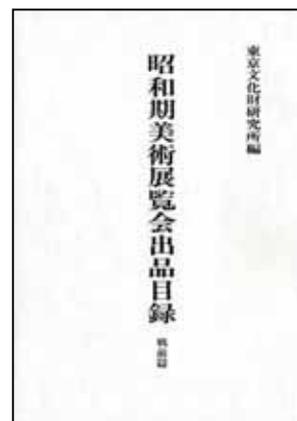
『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』は研究プロジェクト「我が国の近代美術の発達に関する調査・研究 日本近代美術の発達に関する調査・研究 昭和前期を中心に」の研究成果である。昭和戦前期(1926~45年)を中心に国内で開催された美術展覧会のうち、当時の美術を研究する上で主要と思われる32件を選び出し、その出品データを各展覧会ごとに目録化した。

編集にあたっては、各美術団体・展覧会の史料編纂や先行研究においてすでにデータが整理されているものについてはそれを利用もしくは参照したが、原則として開催時の出品目録・図録を典拠として用いた。ただしそれらの資料

を欠くか、もしくは未見の場合は開催時の新聞・雑誌に掲載された展評を典拠とした。

その結果、作品件数にして69,928件のデータを収め、また各展覧会について
の解題や、本書に収録したデータを作家名ごとに編集した「昭和期美術展覧会

出品作家一覧[戦前編]を付して複数の展覧会にまたがる出品状況も一覧できるなど、昭和前期の術を総覧できる基礎資料集となっている。出品目録を収録した美術展覧会、およびその解題執筆者の一覧は下記の通りである。



『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』

- 帝展・新文展 田中淳(東京文化財研究所)・敷田弘子(東京芸術大学大学美術館)
- 再興日本美術院 沓沢耕介(早稲田大学大学院)
- 青龍社 塩谷純(東京文化財研究所)
- 二科会 大谷省吾(東京国立近代美術館)
- 春陽会 小林未央子(東京文化財研究所)
- 国画会 小林未央子・敷田弘子
- 独立美術協会 山梨絵美子(東京文化財研究所)
- 新制作派協会 佐藤香里(早稲田大学會津八一記念博物館)
- 一水会 佐藤香里
- 構造社 齊藤祐子(筑波大学大学院)

造型 滝沢恭司（町田市立国際版画美術館）
造形美術家協会 滝沢恭司
プロレタリア美術大展覧会 滝沢恭司
洪原会 江川佳秀（徳島県立近代美術館）
NOVA 美術協会 江川佳秀
日本版画協会 西山純子（千葉市美術館）
京都市美術展 吉中充代（京都市美術館）
瑠爽画社 篠原聰（成城大学大学院）
山樹社・新日本画研究会・新美術人協会 塩谷純
歷程美術協会 塩谷純
九室会 大谷省吾
新時代洋画展 住田常生（高崎市文化財保護課）
自由美術家協会・美術創作家協会 大谷省吾
創紀美術協会 大谷省吾
美術文化協会 谷口英理（東京芸術大学）
新人画会 藤崎綾（広島県立美術館）
大日本陸軍従軍画家協会 河田明久（早稲田大学）
陸軍美術展覧会 河田明久
聖戦美術展 吉良智子（神奈川県立近代美術館葉山）
大東亜戦争美術展 吉良智子
大日本海洋美術展 吉良智子
航空美術展 河田明久

『柳澤孝仏教絵画史論集』（美09の一環として実施）

当研究所美術部のプロジェクト「光学的手法による美術工芸品の彩色に関する研究」に繋がってゆく光学的手法による絵画作品研究の先駆者・故柳澤孝氏（当研究所名誉研究員）の関係重要論文を1冊にまとめ刊行した。

第一部

藤田美術館の密教両部大経感得図に就いて
大和永久寺真言堂障子絵と藤田本密教両部大経感得図 その製作年代と作家
真言八祖行状図と廃寺永久寺真言堂障子絵（一）
真言八祖行状図と廃寺永久寺真言堂障子絵（二）
真言八祖行状図と廃寺永久寺真言堂障子絵（三）
真言八祖行状図と廃寺永久寺真言堂障子絵（四）
真言八祖行状図と廃寺永久寺真言堂障子絵（五）
廃寺大和永久寺真言堂伝来の真言八祖行状図 平安後期における説話画の一遺例
ボストン美術館蔵の四天王図 新発見の廃寺永久寺真言堂障子絵
永久寺亮恵上人画像
永久寺真言堂障子絵色紙形下より出現の鷹図について

第二部

東寺の両界曼荼羅図 甲本（建久本）と西院本
文保元年の軸銘のある新出両界曼荼羅図
青蓮院伝来の白描金剛界曼荼羅諸尊図様
阿弥陀曼荼羅図
一字金輪曼荼羅図について その図像学的並びに遺品の美術史的考察



『柳澤孝仏教絵画史論集』

- 日野原家本大仏頂曼荼羅について
- 転法輪筒とその絵画
- 称名寺金堂壁画考
- 富貴寺大堂仏後壁背面の千手観音図について
- 十一面観音像
- 藤原時代普賢菩薩絵像の一遺例
- 益田家旧蔵の普賢菩薩絵像について
- 文化庁保管普賢菩薩絵像
- 仁平三年銘の持光寺蔵普賢延命菩薩絵像
- 異色ある孔雀明王画像
- 仁和寺蔵宝珠筥納入の板絵四天王像について
- 青蓮院旧蔵の立像十二天図について
- 定智筆善女竜王像をめぐる資料
- 松尾寺所蔵の終南山曼荼羅について 唐本北斗曼荼羅の一異図
- 道教の星曼荼羅
- 岡寺本尊光背の板絵飛天について
- 慈尊院弥勒仏像台座蓮弁の装飾文様

"A Study of the Painting Style of the Ryokai Mandala at the Sai-in, To-ji :With Special Emphasis on their Relationship to Late T'ang Painting," *International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property :Interregional Influences in East Asian Art History*, Tokyo National Research Institute of Cultural Properties, 1982.

『日韓共同研究報告書 2005 「石造文化財の劣化と周辺環境」』(修 03 の一環として実施)

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書。
大韓民国文化財庁・国立文化財研究所との共同刊行。



『日韓共同研究報告書 2005 「石造文化財の劣化と周辺環境」』

目 次

慶州・南山の塔谷磨崖彫像群における保存処理	金 思 恵
敬天寺十層石塔の保存処理	慎 銀 貞
磨崖仏保存施設と周辺風環境の相関	森井 順之
大分県下の文化財で見られる彩色顔料の特徴について	朽津 信明

『伝統的修復材料に関する調査研究 IV』(修 06 の一環として実施)

刊行にあたって

伝統的修復材料に関する調査研究の成果について	加藤 寛
改質漆塗料の耐候性試験結果報告	神谷 嘉美
金属の伝統的着色について ()	内堀 豪
敦煌写本的文獻学的研究 and 科学分析接点	加藤 雅人、石塚 晴通
装潢における打ち刷毛の効果 接着力を中心に	早川 典子、君島 隆幸、楠 京子、岡 泰央



『伝統的修復材料に関する調査研究 IV』

製造条件による古糊の差異について

早川 典子、川野邊 渉

文化財修復材料としてのフノリ抽出物の特性

早川 典子、荒木 臣紀、貝沼 諭、田畔 徳一、川野邊 渉

平成 17 年度伝統的修復材料に関する調査研究会 / アンケート結果

『レーザーによる文化財クリーニングに関する報告書』(修 07 の一環として実施)

刊行にあたって

事例報告：彩色漆喰上の汚れ除去に関する試み

早川 典子、山本 記子

敬天寺跡十層石塔の汚染物質除去の方法に関する研究

レーザーを使用した汚染物質の除去方法を中心に

金 振享、金 思恵、姜 大一、青木 繁夫

レーザークリーニングや表面クリーニングに関する文献



『レーザーによる文化財クリーニングに関する報告書』

『敦煌莫高窟壁画保存修復に関する日中共同研究 2005』(修 02 の一環として実施)

第 4 次日中共同研究経過報告

加藤 寛

平成 17 年度修理報告

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

平成 13 年度～17 年度オルソ画像インデックス

小日置晴展、楊 鋭

第 53 窟環境調査データ

森井 順之

平成 17 年度敦煌研究員研修記録

王 小偉(翻訳:井上 豪、張 俐)

4 期にわたる「敦煌莫高窟第 194、53 窟の保護に関する日中共同研究」実施の経緯と共同研究の今後

岡田 健

(付録)

敦煌莫高窟保存日中共同研究 年表・資料関係論文

淵田 雄



『敦煌莫高窟壁画の保存修復研究報告書』

『文化財の防災計画に関する研究 第 1 回研究会 文化財防災への道』(修 13 の一環として実施)

文化財防災研究会の背景 内田 昭人

重要文化財建造物防災の現状と課題 村田 健一

歴史都市における地震火災時の文化遺産防災対策 益田 兼房

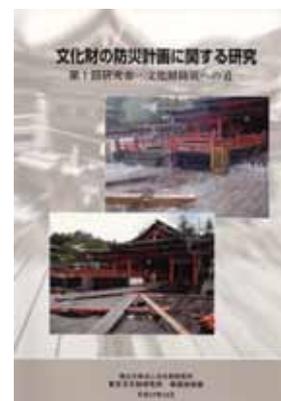
< 質疑応答 >

地震から文化財をまもる 阪神・淡路大震災からの教訓 森田 稔

蔵島神社と台風被害 高村 功一

< 質疑応答 >

京都の文化財 文化財を火災からまもるために 秋葉 洋



『文化財の防災計画に関する研究 第 1 回研究会 文化財防災への道』

奈良市の文化財防災 奥田 政信

< 質疑応答 >

総合討議

【付録】文化財防災ウィール

講演者紹介

おわりに

第 14 回アジア文化財保存セミナー報告書 (英文) (セ 06 の一環として実施)

*Proceedings of the 14th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage,
Living with Cultural Heritage—Asia, perspectives at changing period: Theories and
outline—*

2005 (平成 17) 年 10 月 24 日 (月) ~ 28 日 (金) に実施された「第 14 回アジア文化財保存セミナー」の報告書である。このセミナーは平成 13 年度から 5 年間の予定で「アジア諸国の文化財保護制度」をテーマとして行われているが、当該年度は「文化遺産とともに生きる - アジア 変革期における展望：その理論と概観」テーマとして報告と討議が行われた。この報告書は、各国専門家の発表と、質疑応答の内容をまとめたものである。

[目次]

PROGRAM

REPORT

1 NOGUCHI Hideo

Politics or Political Implications

2 KIM Gwongu

Identity, Politics and Heritage Management in Asia

3 MUNETA Yoshifumi

Sustainable structure and efforts with regard to the revival of traditional cultures

4 Emelita V. ALMOSARA

Governance and Management of Cultural Heritage in the Philippines

5 NGUYEN Quoc Hung

Interdepartment Coordination and Development

6 LÜ Zhou

Integrity of Cultural Heritage Conservation and the Needs of Contemporary Society

7 Adel FARHANGI SHABESTARI

"Cultural Resources Management" from the Cultural Heritage point of view

8 Pichya BOONPINON

Community Archaeology

9 INABA Nobuko

From Tangible to Intangible - An Integrated Approach to Cultural Heritage

10 OKADA Ken

Human Resource Development / International Cooperation

11 SAITO Hidetoshi

The Meaning of "Cultural Heritage" in the Present Age



第 14 回アジア文化財
保存セミナー報告書

12 AOKI Shigeo

Collective Memory

13 Jagath WEERASINGHE

Living Sacred Sites and the Concept of Authenticity: An attempt rephrasing the concept of authenticity in relation to living sacred heritage sites in Asia

14 Amita BAIG

Forging Crucial Alliances: Creators and Custodians

Final Recommendations

Explanatory Notes

ANNEX

Excursion (Kyoto)

Report of the Excursion

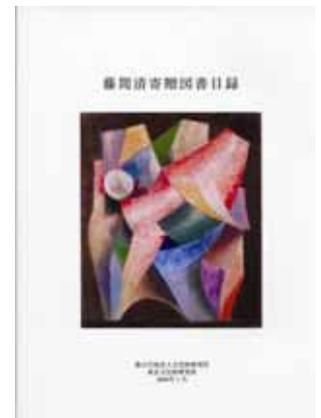
Photos

List of Participants

藤間清寄贈図書目録』(情 05 の一環として実施)

東京文化財研究所では、開設された 1930 (昭和 5) 年より文化財に関する調査・研究に役立てるべく、書籍、資料類の収集、整理、公開を継続して行っている。これまでこのような活動の趣旨をご理解くださる方々よりご寄贈いただいた資料は当所の蔵書形成の助けとなっている。今年度は洋画家故藤間清氏の蔵書をご遺族よりご寄贈いただき、『藤間清寄贈図書目録』(2006〔平成 18〕年 1 月刊)を刊行した。

目録(106 頁)では協力調整官 情報調整室・山梨絵美子の文章「藤間清氏とその蔵書」、藤間清氏略歴のあとにご寄贈いただいた美術関係資料 1,597 件(欧文図書 319 件、和文図書 863 件、展覧会カタログ 124 件、雑誌 291 件)を図書、展覧会カタログ、雑誌別にまとめ収録した。



『藤間清寄贈図書目録』

『『第 35 回文化財保存修復研究協議会 伝統的日本画修復材料への科学的アプローチ～近年の動向～』(修 16 の一環として実施)

刊行にあたって

講演および総合討議

紫外線劣化絹の問題点とその改良

手漉き和紙製造現場での不手際や化学薬品使用の実態について

紙への添加材料について

古糊様多糖の調製

文化財修復に用いられる接着剤の物性とその使用条件

総合討議

研究協議会についての資料

プログラム

講演要旨

アンケート用紙

アンケート集計結果

秦 珠子

長谷川 聡

加藤 雅人

久保田倫夫

早川 典子



『第 35 回文化財保存修復研究協議会 伝統的日本画修復材料への科学的アプローチ～近年の動向』

東文研 NEWS の発行（情 03 の一環として実施）

広報企画事業（情 03）の一環として実施した（69 頁参照）。

『東京文化財研究所概要』（情 03 の一環として実施）

広報企画事業（情 03）の一環として実施した（69 頁参照）。

東京文化財研究所 70 年史編纂事業（情 10-05-1/1）

平成 18 年度の刊行をめざし、当所の前身である東京国立文化財研究所の基盤となった帝国美術院附属美術研究所が 1930（昭和 5）年に設立されてから七十数年の歴史編纂を進めた。詳細は、175 頁を参照されたい。